

感染拡大下 連帯育む 民主教育研究所がフォーラム

民主教育研究所（民研）は26日、「コロナ禍での教育実践と教育の課題を考える」をテーマにフォーラムをオンラインで開きました。同研究所が8月から開

いてきた「コロナ・パンデミックフォーラム」の第4回

で、約70人が参加しました。

埼玉大学教授の馬場久志

さんは、横に人がいるとい

う対面世界の持つ意味や、

コロナ禍の中で踏ん張っている教師、医療・福祉関係者などに子どもを守り手としての連帯の可能性が生まれていることなどを語りました。

東京都の中学校教師は、休校で小学6年生としての締めくくりができないまま中学校に入学した1年生が、学校行事も中止になっ

て力をつける機会を奪われたこと、それを補うための取り組みやジェンダー平等の学習について紹介しました。

法政大学教授の児美川孝一郎さんは、文部科学省や経済産業省の教育政策をめぐる動きについて報告。愛知工業大学教授の中嶋哲彦さんは、安倍晋三首相（当

時）の一斉休校要請は法的根拠がなく、法治主義に反すると指摘することも、感染拡大の中で教育委員会や学校が安全保護義務をどう果たすかについて問題提起しました。

討論では中央教育審議会が審議している答申素案の問題点などについて議論しました。